



宇部市教育の基本理念の実現に向けて  
～「自立」と「共存同栄」宇部を愛し、未来を拓くひとづくり～

宇部市教育委員会 教育長 野口 政吾

現在、教育を取り巻く環境が大きく変化中、学校教育分野においては、急速な情報化やグローバル化に対応するための、GIGAスクール構想によるICTの活用など、社会教育分野においては、人生100年時代の到来を見据えた、生涯学習や持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進など、様々な課題に対する取組が求められています。

このような状況の中、宇部市教育委員会では令和4年3月に第2期宇部市教育振興基本計画を策定し、「自立」と「共存同栄」宇部を愛し、未来を拓くひとづくりの基本理念のもと、4つの基本目標と16の施策の柱ごとに具体的な取組を示しています。

中でも、基本目標2では「共生社会の実現とSDGsの達成に向け人と人が助け合い、支え合う教育活動の展開」を掲げ、誰もが互いの人格と個性を尊重し支え合い、多様な人々のあり方を認め合える「共生社会」の実現をめざし、一人ひとりに対応したきめ細かな教育と、互いを思いやり、ともに成長していく教育を推進しています。

今年度は『やまぐちエコリーダーズスクール』に認証された小中学校が26校に増えるなど、各学校に

おける特色ある取組を通じて、環境問題やエネルギー・資源の問題についての正しい理解を深め、山口の恵み豊かな環境を守るための主体的な行動をとることができる児童生徒の育成を図ることができました。

これからも、小中学生を対象とした水質保全や森林保全などをテーマとした環境学習による体験を通して、自然に対する畏怖の念や命を大切にすることを育み、子どもたちの環境への理解と健全育成をより一層推進していきます。

宇部市教育委員会は、基本計画に掲げた理念や具体的な施策を、学校や家庭、地域と幅広く共有し、その実現に向けて一丸となって取り組むことにより、本市の教育が一層発展していくことを目指します。



ボランティア清掃の様子

### 第3回ESD研修会 (2023.3.11開催)

岡山ユネスコ協会会長・池田満之さんリモート講演  
岡山におけるESDの現状とこれからの課題・感想

○ESDの対象である小中高生たちをお客様扱いにせず、企画段階から参画させることが大事・岡山市のSDGs・ESD推進課が、岡山ESD推進協議会の事務局を担っている。(市役所の7階に同課、2階にESD・市民協働センター(市民協働企画総務課の管轄)があり、岡山市社会福祉協議会と密接な連携を持って、おかやまNPO・ボランティアサイト「つながる協働ひろば」が情報発信等を行っている。) ことなど参考になった。

○学校を拠点として公民館や地域とつながるESD推進、コーディネーター研修など支援の仕組み。学生や子供たちが自分事として取り組み、「知っただけでは社会は変わらない、行動する」大切さ。出前講座でも、答えを言う「説明・納得型」から、「発問・対話型」

が求められる、なるほど!!。  
○環境分野に留まらず防災、利便性といったところまで市民提案から総合的に検討出来ているのは素晴らしい。

これをマラソンで例えるならば、スタート地点とゴール地点と走るルートを決めたのがSDGs、ゴールまで走れるランナーを育てるのがESDです。



### 活動を通して参加者の意識を変える

子どもも大人も、地域ESDの取組によって、社会のつながりや自分との関わりがわかり、地域の中のいろいろな世代の人と学び合う(活動し合う)中で、地域の一員としての実感ももて、地域に愛着がもてるようになったことで、地域の問題を自分ごとと捉え、自分だけでなく地域のみならず共に取り組んでいこうという意識ができるなど、「社会に参画する力」「共に生きる力」「つなぐ力」が高まっている。

自分事をする当事者意識と地域の絆を育む。

社会の習慣を持続可能なものに変えていく(E)えーものを(S)子孫の(D)代まで

持続可能な社会づくりでは、私たち一人一人の意識、生き方が関わっています。



池田さんスライドより

### 宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日～1月3日)



Home Page



facebook



twitter

NPO法人うべ環境コミュニティ

## 持続可能な暮らしを求めて（2）

### 「ローカル自給圏という希望」

阿東つばめ農園・生物文化多様性研究所  
安溪遊地・安溪貴子

上関原発計画が再び動き始めました。政府がいまごろ時代遅れの原発や、再処理によるプルトニウム利用に固執する理由は、長らく極秘扱いだった以下の文書を読めば理解できます。「当面核兵器は保有しない政策をとるが、核兵器製造の経済的・技術的ポテンシャルは常に保持するとともにこれに対する掣肘（ルビ・せいちゅう）を受けないように配慮する。……将来万一の場合における戦術核持ち込みに際し無用の国内的混乱を避けるように配慮する（外務省「#わが国の外交政策大綱」昭和44年、67-68頁）。」

核兵器が使われる時は、一発だけで終わりということではなくて、報復によりエスカレートします。局地戦であっても、日本への物流が止まれば、食料自給率の低い日本は、真っ先に飢えることになります。使用後の「核の冬」による、農業・漁業生産の停滞で、世界中で多数の餓死者が出るという#米ラトガース大学の研究結果は、2022年8月20日の『朝日新聞』で紹介されました。

2023年2月26日に、新山口駅側の維新ホールにお招きした#鈴木宣弘東大教授は、カロリーベースで38%と称している日本の食料自給率が、種子や鶏のひな、化学肥料を計算に入れれば、10%を割り込んでいるという現実を指摘しました。さまざまな事例をあげて、鈴木教授は、地域の種子を守り、生産から消費までが、地域で循環する農と食を支える運命共同体としての「ローカル自給圏」を確立しよう、と山口県の希望を提言しました。

鈴木宣弘著「農業消滅」平凡社新書を読んで、うべっくるブログ ⇒



午後は、山口県各地の活動報告で、鈴木先生も会場に残ってほぼ最後まで聞いてくださいました。長門市の中野茂樹さんは、痩せ田でも作土を集めて厚くすれば、たとえ面積は半分に減っても、10アール換算で10俵（600キロ）の無農薬・無除草剤のお米が収穫できたことを報告しました。周南市の須金地区に千葉県から移住した須田加弥子さんは、唐辛子だけが獣害を受けなかったことから、カレーやスパイスに特化して展開中のビジネスや地域活性化を紹介されました。会場にほど近い小郡幼稚園の片山耕修園長は、子どもたちが畑や小さな田んぼで生き生きと体を動かして、日々の糧を育てている感動的な姿を動画で紹介されました。阿東つばめ農園のイセヒカリの種もみと、無農薬大豆の味噌が使われていて、ひときわ嬉しく思いました。

日本の原発がもう一度過酷事故を引き起こせば、それが西日本であれば、風向きの関係で日本の農業は壊滅します。「山口県の希望」を語る前提として原発も核もない地球が必要です

（#の文献は<http://ankei.jp>で検索を）。



第32回 山口県環境保全型農業フォーラム

あす家族に食べさせるものがない!? 山口県の課題と希望

2023年2月26日

10:00~16:00 (9:30 開場)

開催場所:KDDI維新ホール・会議室

(裏面の地図参照)

定員:140名 資料代 500円

※新型コロナ感染症の発生と、会場および200㎡以上の会場は、事前予約制です

10:00~12:00	講演 あす家族に食べさせるものがない!? 講師:鈴木宣弘 東京大学農学博士、経営学博士、環境学博士、農学博士	
13:15~16:00	二日連続 ・痩せ田の自然栽培でお米10俵 ・鳥獣害の少ない唐辛子に注目 ・耕す子どもたちが未来を創る など	

主催:山口県環境保全型農業推進研究会・山口県有機農業団体連絡協議会

共催:やまぐちの種子を守る会・ヤツタネ!やまぐち

後援:山口県



## 宇部環境国際協力協会（宇部IECA）の活動の事務局を担って

宇部IECA事務局長 古林 隆司

この3月末をもって宇部IECA（アイカ）を退職しますので、就任以来8年間の活動を振り返ってみたいと思います。

さて、会社人間だった私は、60歳の定年を機に何か新しいことに携わってみたいと考えていました。そんな折、宇部市が宇部志立市民大学を開講することを知り、環境に関する事を学びたいと考えて環境学部に入學しました。この市民大学の中で浮田先生や市民大学OB会の方達と知合い、未だに沢山の刺激を受けています。

OB会の活動を継続している中で、浮田先生から宇部IECAの事務局長への就任のお誘いを受け、2015年4月から宇部IECAでの活動を開始しました。そしていきなりJICA草の根技術協力事業（ブンカリス県の水道水質改善）の申請、JICA青年研修やマラッカ州のごみ分別研修などの申請や受け入れ、そして報告書作成などを担当し、面食らいながらも何とか初年度を過ごすことが出来ました。幸いなことにJICA青年

研修はその後毎年受託することが出来、マレーシアやインドネシアから多くの研修員を受け入れてきました。

一方、草の根事業については、その後ブンカリス県、ブンカリスのNGO法人Semesta、マレーシアのマラ工科大学などと検討したものの申請には至っておらず、大変残念です。近年、JICAの草の根事業は具体的な成果を求められ、かつ単なるごみ分別などのテーマでは受託出来なくなり、厳しい状況になっています。

一方で、環境保全技術講座や環境国際セミナーなどを計画し、実施することは私にとって大変楽しいことでした。宇部IECAの活動の中で浮田先生、松田理事長、竹重さん、市の関係者の方々、そして多くの会員の皆様のご協力をいただきました。改めて厚く御礼申し上げます。そして、宇部IECAの活動が更に充実するよう願っております。大変お世話になりました。

